

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:50.

死産に直面した助産師への支援

林 智江, 永田 裕子, 阿部 明美

死産に直面した助産師への支援

旭川医科大学病院 周産母子センター

○林 智江 永田裕子 阿部明美

【目的】

死産に直面した助産師への支援と背景を明らかにする。

【方法】

研究対象者は死産に直面した助産師を支援した経験がある勤続4年目以降の助産師とし、半構成的面接を行い、得られたデータは質的記述的に分析した。研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得、研究対象者には文書および口頭で研究目的を説明し同意を得た。

【結果】

死産に直面する助産師に行っている支援では【助産師の個別性の把握】【助産師を支える】【死産と向き合える環境を整える】【患者ケアの支援】【ともに振り返る】【経験を伝える】【自身の支援の振り返り】の7つのカテゴリーが抽出された。支援を行うに至った背景では

【死産について学ぶ機会がない事による戸惑い】【自身の考えるケアについての迷い】【患者への精神的ケアの不足】【助産師が向き合える環境の重要性】【内省することで助産師が自ら乗り越える】【患者への精神的支援の重要性】の6つのカテゴリーが抽出された。

【考察】

対象者は死産と向き合える環境を整えることで助産師が内省し乗り越えられると考えていた。また、自分も死産ケアに対する戸惑いや学習不足がありながら助産師を支え、時には自身の経験を伝え、ともに振り返ることによって内省を促していた。一方、患者への精神的ケアが重要であると認識しているものの、自分も十分にケアできていない思いがあり、直接ケアを行っている助産師と一緒に患者ケアを行っていた。